学校番号	123

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等物理基礎　改訂版（実教出版）						
副教材等	改訂　ネオパルノート物理基礎（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・主にプリントを用いて授業を進めます。プリント保管用のファイルを用意してください。
・身近な物理現象に対して「なぜ？」の視点を持つことを意識してください。
・ある学習内容が次の学習内容のベースになることが多いので、予習以上に復習に重きを置いて取り組んでください。
・普段から電卓等に頼らずに自分の力で計算する習慣をつけてください。
・学習内容ごとに単位を正確に覚える努力をしてください。単位をきちんと覚えていれば公式を覚える助けになります。

2　学習の到達目標

・身近な物理現象について、物理量の測定方法および表記方法を理解する。
・数式やグラフを用いることにより物理現象についての理解が深まることを実感する。
・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。
以上をもとに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業プリント 発問に対する返答等 確認テスト レポート 発表 実験・実習等	確認テスト 定期テスト レポート 発表 実験・実習等	確認テスト 定期テスト レポート 実験・実習等	確認テスト 定期テスト レポート 実験・実習等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	物体の運動とエネルギー	物理量の測定と扱い方			○		a:物体の運動とエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 b:物体の運動とはたらく力の関係を考察し、図および式を用いて的確に表現している。 c:組立単位および有効数字の意味を理解し、問題演習や実験等の際に的確に扱えている。 d:各公式を問題設定に応じて使い分けることができる。	授業プリント 発問に対する返答 確認テスト 定期テスト レポート 発表 実験・実習等
		運動の表し方	○					
		直線運動の加速度				○		
		様々な力	○					
		力のつり合い		○				
		運動の法則		○				
		物体の落下運動				○		
2学期		運動エネルギーと位置エネルギー	○					
		力学的エネルギーの保存				○		
	様々な物理現象とエネルギーの利用	熱と温度				○	a:様々な物理現象について、日常生活や社会との関連を意識して学習に取組んでいる。 b：熱や電流といった目に見えない物理量の動きを、図および式を用いて的確に表現している。 c:波を中心とする様々な現象について、グラフを用いて的確に記述することができる。 d:「熱と温度の違い」「音が波であること」「各エネルギーが変換可能であること」について正しく理解している。	
		熱の利用		○				
		波の性質			○			
		音と振動			○			
3学期		物質と電気抵抗		○				
		電気の利用	○					
		エネルギーとその利用				○		
		物理学が拓く世界	○					

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。